
終わりは何時来るのか・・・（仮）

藍猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わりは何時来るのか・・・（仮）

【Nコード】

N3448Z

【作者名】

藍猫

【あらすじ】

親に見捨てられて親友に裏切られてイジメを受けていた私・・・
浅野季莉あさのきりは屋上から飛び降りて自殺する。が、それは未遂で終わってしまふ。

動きにくくなった左腕と共に、私は一からやり直す為、遠くの学校へ転校することになる。だが、そこは、狂った者達の巣窟だった。

*R15は一応です・・・

始まりの悲劇（前書き）

ふと書きたくなって書いたホラー系の小説です。

ホラーなのかよく分からなかったりしますが、

読んで下せると嬉しいです。。。

勢いで書いたので

話の流れがおかしかったりしたらすいません。。。

始まりの悲劇

「死ね」

その簡潔な、そして残酷な言葉が投げかけられた。
私はきつと酷い顔をしていただろう。

今まで似たような事は言われ続けてた。

だが、これほどに直球に言われたことはなかった。

だからこそ今まで頑張って生きることができたんだと思う。

いくら酷い事をされても必要とはされている、と頑張って頑張ってた。
。。。

なのに。。。なのに。。。

たった一言で私の心は粉々に砕け散った。

ああ。。。私はなんの為に生きているんだろう。。。。

日に日に私はやつれていく。

皆はそんな私を笑う。

嫌いな人も、好きだった人も、信じていた人も。。。すべての人が。

。。。嫌い。皆、嫌いだ。

皆。。。皆、嫌い。嫌い。嫌い。嫌い。嫌い。嫌い。嫌い。嫌い！嫌いだ

っ！！！！

「あは・・・あははははははは！！！」

学校の屋上で高笑いする。

私を押し様に風が吹き、私はその風に身を委ねて飛び降りる。

グツシャアア！

身の毛も弥立つ様な気持ち悪い音が響く。

最後に見たのは不自然に折れ曲がった左腕。

ああ・・・もうこの左腕とは駄目だな・・・。

当...たり所が良かったのか痛みも感じない。

「・・・やっと・・・死ねる・・・。」

フツ　と私の意識は途絶えた。

ここ最近感じなかった安堵の気持ちはとても落ち着いていて心地が良かった。

始まりの悲劇（後書き）

意外と考えるので

大分更新が遅いと思います。

ここまで読んでくださってありがとうございます！！

暗雲の始まり（前書き）

2話目です。。。

暗雲の始まり

「初めまして。私、浅野季莉あさのきりって言います。
前の学校では『きり』って呼ばれてました。これからよろしくお願
いします。」

私　　浅野季莉はやり直す為に転校してきた。

あまり激しく動かすことができない左腕は今だ固定されたままの状
態だ。

私はあの時、死ねなかった。

誰も必死で生かそうとも思っていなかったのに、私は生き残ってし
まった。

死ぬつもりで飛び降りとして、誰も望んでもいないのに生きてるな
んて……
笑いが込み上げてくるぐらいに私は滑稽だっただろう。

いや……今でも私は滑稽だろう。

前みたいになるのが嫌で、自分を偽り、新たに友達と成るであろう
者たちを

騙そうとしているのだから……。

新たな学校でのクラスは私を除き、約15人のクラスだった。

その全員が、何かに失敗し、それをやり直す為にこの学校に居るらしい。

謂わば、問題児の集まる学校という事だ。

そのクラスメイトがまともなはずがない。

だから標的にされない様に、私は仮面を被る。

そうすればきつと、前みたいにはならないから……。

このクラス……2年A組のクラスメイト達は黙って私を観察し続ける。

全員が揃って死んだような虚ろな目をしていることに、

普通じゃないと物語っている様な目に、私は恐怖を覚えた。

そして、それと同時に、この人達なら大丈夫という安堵もあった。

前のクラスメイト達はニヤニヤとした厭らしく、そして蔑む様な目だったから……。

だが次の瞬間、その目は……空気は一変した。

「わぁ！こちらこそ宜しくね、きりちゃん!!」

「きり？だっけ？これから宜しく!!」

「やったー！転校生だぁー!!」

「結構可愛いじゃん」

「宜しく〜」。

静寂に包まれていた教室は一気に明るく、騒然となる。
誰もが嬉しそうに叫び、絶叫している。

「は……はは……。」

私は驚愕から覚め、微かに体を震わしながら小さな声で笑う。
この変わりように驚き、変な違和感があったが、
でもそれ以前に、私が受け入れられた事が嬉しかった。
誰にも受け入れられず孤独に生きていた私が受け入れられたことが
……。

私はここで生きる理由を見つけることができるかも知れない。
心から大切にできる人ができるかも知れない。
前向きに、力強く生きれるかも知れない。

「……うん。 宜しく……！」

私は久しぶりともいえる心からの笑顔で、出そうになっていた涙を
隠す。

私は涙を隠している事がばれるのが恥ずかしくて誰とも目を合わせ
なかった。

でも、もし目を合わせていたら私はきつと気付くことができたろう。

クラスメイト全員が私が恐れていた目をしていた事に。

そして私は気付くべきだった。

最初に感じた違和感に。

今でも死んだような虚ろな目の先生に。

そして、この学校は、
普通じゃない問題児達くもったものたちの巣窟くわくということに……。

気付けていたら……あんなことにはならなかったかな……？

暗雲の始まり（後書き）

最初は和やかめです。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3448z/>

終わりは何時来るのか・・・（仮）

2011年12月11日21時52分発行